

2023年5月22日
カイゲンファーマ株式会社

いいところそのままに、時短とやさしさをプラスした
軟性内視鏡用洗浄消毒器
「クリーントップ[®] KD-1 SAKURA」を新発売

カイゲンファーマ株式会社（本社：大阪府中央区、代表取締役社長：笠松尚志）は、軟性内視鏡用洗浄消毒器「クリーントップ KD-1 SAKURA」を2023年6月1日より販売開始いたします。また、それに先立ち、第105回日本消化器内視鏡学会総会（会期：2023年5月25日-27日、会場：グランドプリンスホテル新高輪）で展示いたします。

「クリーントップ KD-1 SAKURA」はその名の通り、桜色の優しいデザインで院内に癒やしと温もりを演出します。本製品は医療や食品など幅広い分野で利用されている強酸性電解水を使用し、その消毒効果の指標となる有効塩素濃度などをリアルタイムでモニタリングして一定に保ちます。強酸性電解水は一般細菌、真菌類はもちろん、芽胞形成菌や抗酸菌などの消毒抵抗性が高いとされる菌に対する消毒効果が報告^{*1}されています。また、従来機種と比較して消毒時間が短縮され、水の使用量も低減しました。さらに、作業工程のパターン登録機能^{*2}が追加されたため、手軽に設定変更が可能となり、内視鏡検査のより一層の効率化が期待できます。

カイゲンファーマは医療現場のニーズに応え、医療の品質向上に寄与する製品・サービスを今後も提供してまいります。

○主な特徴

（1）人と環境にやさしく、菌・ウイルスに効く強酸性電解水を使用

感染症の原因となる病原微生物に対して広く消毒効果^{*1}を示します。また、強酸性電解水の消毒能力を保つために重要な3つの物性（有効塩素濃度・pH・酸化還元電位）をリアルタイムでモニタリングして、最適な条件を自動で制御します。さらに、従来機種よりも水の使用量を低減しました。

（2）作業時間の短縮とかんたん操作を追求

工程全体にかかる時間が従来機種よりも短くなりました。また、工程のパターン登録^{*2}が可能となったため、ご使用状況に合わせて手軽に設定を変更できるようになりました。

（3）安心をサポートする充実の機能

内視鏡の漏水テスト機能、内視鏡保管時に微生物増殖を防ぐ乾燥目的のアルコールフラッシュ機能、PCによる履歴管理機能など、多彩な安心機能を搭載しています。

 CLEANTOP
KD-1 SAKURA



○製品仕様

| | | | |
|------------|---|----------------|--|
| 販売名 | クリーントップ KD-1 | | |
| 一般的名称 | 軟性内視鏡用洗浄消毒器 | | |
| 医療機器承認番号 | 22700BZX00388000 | | |
| 分類 | 管理医療機器（特定保守管理医療機器） | | |
| 適用内視鏡 | 消化管用軟性内視鏡、耳鼻咽喉用軟性内視鏡 | | |
| 適用本数 | 1本 | | |
| 洗剤洗浄時間 | 1分 | | |
| 消毒時間 | 1分30秒 | | |
| 強酸性電解水 | pH 2.45±0.25 酸化還元電位 1120±70mV 遊離残留塩素濃度 10~40ppm | | |
| 強酸性電解水容量 | 16L | | |
| アルコールフラッシュ | 自動送液 | | |
| 洗浄消毒履歴管理 | データ出力：付属 USB データ管理：付属ソフトウェア | | |
| 電源条件 | 定格電圧 | AC100V | |
| | 定格周波数 | 50/60Hz | |
| | 電源入力 | 1.2kVA | |
| 使用条件 | | | |
| 使用環境 | 設置場所 | 屋内 | |
| | 周囲温度 | 10~40℃ | |
| | 相対湿度 | 30~85%RH | |
| | 気圧 | 700~1060hPa | |
| 水道環境 | 水道水圧 | 0.1~0.4MPa | |
| | 水道水量 | 毎分 15L 以上 | |
| | 水道水温 | 30℃以下（凍結なきこと） | |
| | 水道水硬度 | 総硬度 120mg/L 以下 | |
| 外形寸法 | 480mm(W)×865mm(D)×1066mm(H) | | |
| 重量 | 110 kg | | |
| EMC 適合規格 | JIS T 0601-1-2:2018 | | |

○このニュースリリースに関するお問い合わせ

カイゲンファーマ株式会社 koho@kaigen-pharma.co.jp

*1 Okano T, et al. PLoS ONE. 2022; 17(10): e0275488.

岩澤篤郎. 日本透析医学会雑誌 2015; 90-3.

Nakano T, et al. Biomed Res. 2015; 36(2): 109-13.

Kiura H, et al. J Microbiol Methods. 2002; 49(3) 285-93.

Morita C, et al. J Virol Methods. 2000; 85(1-2): 163-74.

Tagawa M, et al. J Antimicrob Chemother 2000; 46: 363-8.

Tsuji S, et al. Endoscopy 1999; 31 (7) 528-35.

野村浩康, 他. 日本手術医学会誌 1998; 19 11-9.

Rutala WA. Am J Infect Control 1996;24:313-342.

岩沢篤郎, 他. 日本環境感染学会誌. 1995; 10: 53-7.

*2 最大4パターン